＊「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。　№166　2018.07.31

飯舘村から「ナタネ視察団」を迎えて

（杉内 清繁）

突然の、想定を大きく超えた東日本大震災の爪痕からは、放射能汚染による不安な生活の叫びがあります。

7 年の時の経過の中に、大きく変貌してしまった地域社会の実態は、それぞれに苦難の選択を強いられ、進まざるをえない状況にありますが、私どもの地域社会では、同様の環境と向き合いつつ多くの皆さんの支援をいただき、小さなところから始めたナタネ栽培の取り組みが、生まれ育まれてくる新しい発見や、希望・協働につながる展開も見えてきます。

放射能汚染がひきおこす、自然環境の破壊・地域社会の崩壊は、思った以上に深刻であり、言葉で表わせるような生やさしいものではありません。中でも、この地域社会を担う次世代の若者達は、既に避難先で新しい生活を始めています。この現実を正しく受け止め、後世に残せる生活環境を、少しでも取り戻したいと考えた上に、「菜の花プロジェクト」の取り組みがあります。

昨年の秋から、新たなナタネ栽培の取り組みを、小高区や飯舘地区の皆さんにも試みていただき、7 月 13 日には、今年開所した搾油所や乾燥設備の見学会を実施いたしました。参加者の皆さんからも、強い関心を寄せていただくことができ、これからも情報の共有を図りながら、一緒に希望を実現していきたいと思います。

〒460-0012　名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33　ST プラザ鶴舞 5 階 B
NPO 法人　チェルノブイリ救援・中部
銀　　行　　名：**三菱 UFJ 銀行 高畑支店（店番号 297）**
口　座　番　号：**普通 1682863**
口　座　名　義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部　理事長　原 富男
郵　便　振　替：00880-7-108610
ＴＥＬ／ Ｆａｘ：052-228-6813（月･水･金 10:00 ～ 17:00）
ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

【南相馬便り】

（神野英樹）

＊拡がりを見せる「菜の花プロジェクト」！

・7 月 13 日、飯舘村役場が企画した「飯舘→南相馬　ナタネ視察研修会」が、飯舘村の各行政区長をはじめとする 20 数名の参加を得て実現した。当「南相馬農地再生協議会」は、杉内代表・奥村理事をはじめとするスタッフ 6 名で出迎え、これまでの（苦労話を含む）活動状況を説明し、乾燥機や搾油所のご案内をさせていただいた。飯舘村は、昨年の 4 月に一部のエリアを除き「避難解除」となり、2017 年度は「景観作物」として「菜の花」を栽培。2018 年度は、いよいよ「農産品」として「ナタネ」の栽培に取り組もうとしている。「飯舘村⇆南相馬」の相互協力に向けて、確かな第一歩を踏み出すことができたのではないかと感じる。

・同じく、昨年 4 月に「帰還解除」となった浪江町の「エゴマ栽培（石井農園）」もまた、「油脂植物」つながりの仲間として、助け合っていきたいと思う。

＊NHK 総合 TV で、特番【復興サポート】放映！

・6 月 23 日、浪江町スポーツセンターにて、【復興サポート（～放射能汚染からのふるさと再生 福島・浜通り～）】の収録（シンポジウム）が行われた（放映は 7 月 22 日）。

・昨年 4 月に「避難解除」となった「飯舘村・浪江町・富岡町」に帰還した人々の、農業復興に対する取り組みを紹介するとともに、一足先に解除となった南相馬の「菜の花 PJ」にもスポットを当て、その応用や協働の可能性を探る…という主旨。番組は、住民（被災者）の側に立ち、真摯に作られていた。

・上（政権）を見て、「忖度＆損得」に走るマスメディアは御免被りたいが、国民（被災者）目線で取材をする番組は貴重な存在。放映後の反響も大きい。

＊「第 15 期 汚染マップ」の配布　完了！

・今回から、「南相馬市・浪江町・富岡町」の各地図を一つにまとめた「合同マップ」を作成。併せて、2 年前の春（2016 年 4 月）と今春（2018 年 4 月）の「合同マップ」を左右に並べた「比較マップ」を作成した。これにより、福島第一原発を挟む南北の地域の汚染状況や、この 2 年間で変化した（軽減した）汚染状況が一目でわかるようになり、配布先（掲示拠点）の皆様から高い評価をいただくことができた。また、マップの作成・配布が、この 7 年間 途切れることなく続いていることに対して、労をねぎらうエールを送っていただき、まだまだ「測定隊を止めるわけにはいかない」ことを痛感した。

・さて、「第 16 期（第 32 次＆第 33 次）測定隊」は、下記の通り決定。（測定ボランティアの皆様のご協力に、あらかじめ感謝！）

第 32 次測定隊…10 月 13 日（土）＆14 日（日）
第 33 次測定隊…10 月 20 日（土）＆21 日（日）

＊オペラ・オペレッタの観賞！

・7 月 25 日、【ロッシーニの『セビリャの理髪師』と、オペラ・オペレッタの饗宴】と銘打って、本場中央ヨーロッパのプロ歌手たちによる、オペラが上演された（小高区／浮舟文化会館にて）。私も、会場一杯に詰めかけた南相馬市民とともにオペラを堪能し、至福の時を過ごした。コンサートの最後に、中欧のオペラ歌手たちが、【花は咲く】を日本語で歌い始める。いつしか、会場の観客は涙ぐみ、そして心が一つになる。

♪ 真っ白な雪道に春風香る
♪ わたしは懐かしいあの街を思い出す
♪ 叶えたい夢もあった 変わりたい自分もいた
♪ 今はただ なつかしいあの人を思い出す
♪ 誰かの歌が聞こえる 誰かを励ましてる
♪ 誰かの笑顔が見える 悲しみの向こう側に
♪♪ 花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に
♪♪ 花は 花は 花は咲く いつか恋する君のために
♪♪ わたしは何を残しただろう…

私たちは、何を残すことができるのだろう。

飯舘⇨南相馬

ナタネ視察研修会に参加して

（飯舘村　菅野宗夫）

♪♪水清らかな 山うるわしく♪♪　の村民歌詞にもあるように、飯舘村は自然環境の恵みがいっぱいあり、それを受けて農業は村の基幹産業とし、飯舘らしい「風土」をつくりあげてきました。

そんな飯舘村は、2011 年東日本大震災に起因する東京電力福島第 1 原発事故により、全てが汚染されてしまい、長い間避難生活を強いられました。

私も、チェルノブイリ救援・中部の河田先生に事故直後に出会う事ができ、また、知識を持っている方々と「NPO 法人ふくしま再生の会」を設立し、積極的に農業（農地）の再生と生活の再生に取り組んでいます。課題がいっぱいあることはご承知の通りですが、今できることを今できる人が、前へ前へと進めなければ･･･の思いでトライしています。

そんな中、ナタネ視察研修会に参加させていただきました。多くのことを学びとる事ができた、有意義な時間でした。

杉内理事長さんを中心に、2012 年に実践的に 22ha のひまわり播種をした「おひさまプロジェクト」からはじまり、50ha を超える面積に菜種播種栽培・ナタネ搾油・食用油販売開始などをしている姿からは、将来の地域のありかたを見据えた先導的行動の凄さを痛切に感じました。

飯舘村は昨年、長泥地区を除いて避難解除されました。未だに戻れない方々が多くいますが、戻れた方を中心に戻れない方も含め、将来の地域の在り方について話し合いをし、実行に結び付ける動きをはじめているところです。

この研修会から、飯舘村の我が地区の農地の再生のためには、菜種の栽培も大きな柱の一つとして取り組む事が必要だと、強く感じました。その為には、栽培できる環境づくり、特に、基盤整備や暗渠・排水路の設置によって、畑地化を図りながら農地を再生し、収益性の高いものへと進めなくてはならないと感じています。併せて、今後は広域的に連携できるものを模索しながら進める事が、必須であると思います。

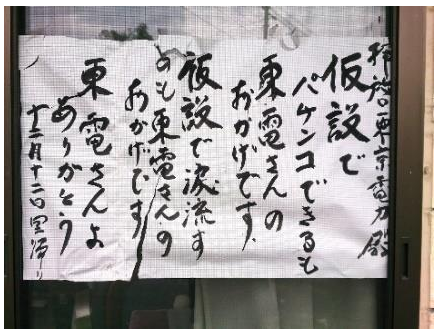
南相馬市との気象条件の違いを逆手にとって、連携できることは楽しみです。

これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

「浪江町　国道 114 号線を走る」（井上 めぐみ）

「お父さん、今日は筆書きしないの？」と私。「いや、気分じゃねえ。もう変わったんだ…少しずつ、気持ちが…な」と津島のお父さんが言う。いつの日かのやりとりを思い出し、合掌した 2018 年 7 月 3 日。浪江町前町長 馬場有氏の葬儀に参列した。縁もゆかりもない、いち個人ボランティアの私が参列していいものだろうかと悩んだが、やはり手を合わせたかった、悔やみたくなかった。

『拝啓東京電力殿 仮設でパチンコできるのも東電さんのおかげです 仮設で涙流すのも 東電さんのおかげです 東電さんよ ありがとう 12 月 12 日 里帰り（2011 年）』･･･これは 2013 年のある日、震災後ボランティア活動で出会った郡山市の親友より送られてきた画像。



福島第一原発より約 30 キロ離れた浪江町津島地区。とある住宅縁側ガラス戸に貼られていたうちの 1 枚だった。一時帰宅の度に心境を綴っていたと思われる。私は胸がえぐられる思いで、すぐに避難先の二本松市の仮設に向かい、この筆書きの主を探し訪ねた。いつからか私は「津島のお父さん」と呼ぶようになり、一時帰宅に同行する。

「帰りに地区を回ってくんねぇか、誰か帰ってきてるかもしんねぇ、声かけてぇんだ」

私「うん、回って帰ろうね」

国道 114 号線をまっすぐ走る。

南津島～赤宇木～手七郎と回るが、人に会うことは一度もなかった。

眩しいくらい陽が差しキラキラした川の流れ、そんなふるさとの景色を車窓から眺めながら、この地の思い出を懐かしそうに語ってくれた。

浪江町町長のこと。原発事故後、それぞれの事情で避難所に向かえなかった人たちが避難生活を送っていた、赤宇木の集会場のこと。どんどん溢れてくる。餓死した鶏たちがそのままで、雪の重さで潰れてしまった養鶏場のこと。一時帰宅で命を絶ってしまった男性のこと。すぐに戻ってこれると信じて、飼い主たちが放し残した愛犬たちのこと。

葬儀の後、あの時のようにまぶしく陽が差す国道 114 号線を車で走った。取材時に目に涙をため語っていた馬場町長、天国でもう泣かないでください。数え切れない人々が、馬場町長の思いを引き継いでいます。どうか安らかに。

定期総会＆チェル救デーを開催しました

（市原佳代）

6 月 9 日、総会では初めての会場「ブラザーミュージアム」（名古屋市瑞穂区）で定期総会を行いました。出席者は 32 名（内、書面出席は 17 名）で、6 年目という異例の長さの代表となった原さんの、場数を踏んだスムーズな進行のもと、すべての議案を承認していただき無事終了しました。今回は、どきどきするような鋭い（!?）質問もなく、なごやかな雰囲気の総会でした。なごやかさとは裏腹に、今年度の厳しい予算案は、チェルノブイリ支援にとくに影響を及ぼします。しかし支援先の被災者団体は、この 20 年間で少しずつ育っていた「自助努力の芽」が、ようやく実りつつあります。自分達で力強く生き、支え合う。自分達で資金や権利を獲得していく。それは、南相馬の被災者の方々から学んだ生き方なのかもしれません。

後半の「チェル救デー」では、「黄色い花畑の未来」と題した、札幌 TV のドキュメント番組を観ました。南相馬の菜の花プロジェクトの取材から、国産菜種油の現状と問題点を丁寧に掘り下げた問題作でした。希少価値である国産菜種油に取り組むことは、冒険であることに改めて気づかされました。でも、多くの支援者のエールを感じる番組でもありました。

そのあと、昨年 9 月より「とどけ鳥＆再生協」のスタッフとして活動している神野英樹さんが、「緊急」「復興」「自立」という流れを追いながら、事業報告をしてくれました。

神野さんは、チェル救創立からのメンバーで、チェルノブイリ事故からの 30 年を深く知っている数少ない人物です。チェルノブイリと南相馬を重ね合わせながらの丁寧な活動は、南相馬の方々に、何よりの安心感をもたらしているのではないでしょうか。

総会には、南相馬での測定隊の常連メンバーの方々も参加してくださいました。南相馬の事を「我が街」のように思い、チェル救といっしょに悩み、心を寄せてくださっている熱い方々です。「私たちは支援者の方々に支えられている」･･･と、改めて感じた一日でした。

7月14日「LUSH Charity Party」に参加しました。（神野 美知江）

「LUSH チャリティパーティ」って何？
実は、初耳でした。

チェル救に、お誘いメールがあったのは、南相馬「菜の花 花見会」の後の 5 月初旬のことでした。

自店の営業時間を使って、社会問題の根本解決の為に活動されている草の根団体さん達と一緒に行うパーティーです。

LUSH では、「チャリティポット」という売上げ金の全額（消費税を除く）が草の根団体さんに寄付される商品を販売しているのですが、イベント時間内の売上を参加していただいた団体さんへ寄付させていただきます。

チェルノブイリへの支援の他にも、菜の花プロジェクトとしても活動されていることを知り、LUSH でも福島産菜種オイルを使用したソープを取り扱っているので、福島への取り組みや、菜の花プロジェクトの活動をテーマとしたイベントにしたいと考えています。お客様にも知っていただき、一緒に考えていくきっかけになれればと思います。

わぁ～お！　そして事務所で打ち合わせ。
初回は緊張の面持ちで自己紹介、そしてメインテーマを提案し、優先することは何かを話し合い、具体的な内容や、どんな体制で店頭に立つのかなど、3 時間ほど話し合いました。

2 回目は、店頭で見てもらうパネルの内容や、油菜ちゃんに関連したクイズ、来店者が参加できること、事前配布用と当日配布用の

＜菜の花のスタンプ　い～っぱい（右上）＞

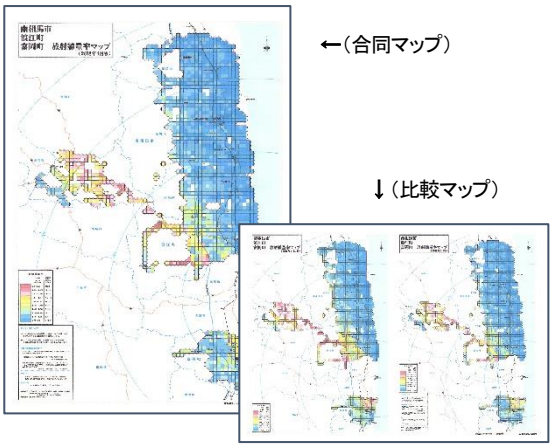
チラシ内容など、具体的なことを打ち合わせました。

LUSH と言えば、南相馬のナタネを材料に、「つながるオモイ」と名付けた石鹸を世界中に広め、今春の空間線量マップ製作費の助成金もいただくという大切な関係です。何か手落ちがあって不快なオモイをさせてはいけないと慎重になりました。幸い、事務局内の連携と技（わざ）のおかげで、とても良いパネルやチラシが完成し、来店したチェル救とは無縁だった皆さまに、手渡すことができました。

当日「チャリティポット」は、27,000 円ほど売上げ、チェル救への支援金になりました。

＊　＊　＊　＊　＊

春の「空間線量率マップ」は、LUSH チャリティバンク助成金で、南相馬市・浪江町・富岡町を一枚にした「合同マップ」と、過去の線量とを比較できる「比較マップ」の 2 種類を作ることができました（事務所に予備があります）。


←（合同マップ）
↓（比較マップ）

NHK「復興サポート」に参加して

浪江町のエゴマ栽培　（石井 絹江）

あの大震災とそれに続いて起こった東京電力福島第一原子力発電所の事故により、避難を余儀なくされてから7年数ヶ月が経過しています。これまで、被災した私たちに対して寄せられた、多くの温かいご支援に心よりお礼申し上げます。

浪江町は平成29年3月31日をもって、帰還困難区域を除く全ての（と言っても面積では2割だけ）避難指示を解除しました。解除に合わせて、役場機能も9割方の職員が二本松市から浪江町の本庁舎に移り、ようやく本格的な復興の業務にあたっております。

街に入ると、以前と比べてすっかりきれいになっています。歩道にまで生い茂っていた雑草もきれいに取り除かれ、半ば倒壊した建物もほとんどが解体され、広大な空間が広がっています。現在は、工事の車両も頻繁に行き来し、少しずつではありますが、活気さえ見られる浪江町になって来ました。

私の住んでいた浪江町赤宇木地区は、帰還困難地区で未だ放射線量が高く、30年は耕作できないだろうとされています。震災前は、家族8人でそれぞれ役割をもって、父母は家の周りを草一本なく手入れして、孫の面倒を見るのが日課でした。夫は酪農業で、乳牛35頭を生業として飼っていましたが、乳牛35頭を連れて避難する事はできない辛さを味わい、「それなら私と一緒にエゴマの作付けから加工までやろうか！」と、同じ浪江から避難した夫の同級生三浦功二さん（70才）に話しかけ、3人で力を合わせ福島の地で農地を3年前から少しずつ買い求め、自家野菜とエゴマ（じゅうねん）を作付けしています。

現在は、浪江町の遊休農地も借り受け、今年度は3町歩に面積を増やし、手作業から機械栽培に切り替え、三浦さんがエゴマの作付けと搾油を担当し、私は食品加工を担当しています。

お互いの合言葉は**「みんなに元気届けっからな。」**福島から浪江まで往復4時間かけて通い、エゴマ栽培のため、朝は5時発。

爽やかな汗を流す事で、一度は生業を失いながらも現在は福島と浪江の仲間に助けられて、浪江を一から再生しようと、国道114号線沿いに「ようこそエゴマの里へ」の看板を掲げました。

● 石井農園の仲間たち ●

これからは本格的に後継者を探しつつ、栽培と販売方法等を勉強しながら、放射線量と風評被害に向き合って前向きに復興させたいとの想いから、「復興サポート」の番組で、遠く離れた皆様へ現在の浪江町での現状を少しでもお伝えできればいいな～と考え、参加しました。

そして、エゴマ油の販売だけでなく、福島は果樹王国（さくらんぼ・桃・りんご・いちじく・プラム等）。規格外を新鮮な内にジャムに加工して販売しています。基本的に「私が食べたい」「家族に食べさせたい」ものとして、自信を持って販売していますが、やはり風評被害があり、多くを語りたくない時もあり、一人悩むこともしばしばです。

震災以前の浪江町には、たくさんのお菓子作り名人がいましたが、皆、遠く離ればなれとなりました。私の義母は当時、「かぼちゃまんじゅう」を仲間と手作りで作っていました。私は、その手さばきを伝授されて、3年前から作り続けています。2年前までは、福島でかぼちゃの作付けをしていましたが、今年度からは浪江の農地で作りたいと申し出た高橋さん夫婦が、「俺はずーっと前から作付けしてたから、黄色いハートの九重栗南瓜は俺に任せろやっ！」と言ってくれました。私の作る「かぼちゃまんじゅう」は、餡も生地も九重栗南瓜を使って、作付けから加工までを目指して汗を流しています。

もう、理想を語り合う時期は、残念ながら過ぎてしまいました。8年目の今、私達は現実を直視し、町民一人一人の真の「復興」に向けて、知恵を出し合う時に来ていると思います。

南相馬市での放射線測定に参加して

（世田谷区　渡會清治）

■小高の町

小高の町は一見被災したようには見えない佇まいをしている。1 年前に、常磐線が浪江まで運行再開した際に、小高駅に降り立った時も同じような感じを抱いた。それはなぜなのだろうか。隣接する浪江の町などとは全く異なるこの差に、原発事故･･･ひいては大規模災害からの町の再生のヒントがあるように思われる。この 7 年間、津波被災地の復興まちづくり支援に携わってきたが、今回のこの町での経験を通じて、その答えの一端が得られたように思う。

■放射線測定

友人の星野さんの紹介で、「南相馬市を拠点として、民間団体が放射線測定を毎年春と秋に継続して実施している」ことを知り、現状がどの様になっているのか興味もあって参加した。測定隊の拠点である小高駅前の双葉屋旅館には、各地から 20 名弱の参加者が集まり、いわば合宿状態であった。作業は対象地域を一定の範囲で分担し、500m メッシュ毎の放射線量を測るものである。二人一組になって、車で測定ポイントを順々に探しながら測定する単純な作業であるが、後日このデータがマップ化され、結果がウェブサイトで公表される。こうした地道な作業が 2011 年 6 月から 15 期にわたって継続実施され、データストックからこの間の変化を含め時々刻々と変化する放射線量の実態を把握し、地域再生に向け基礎となる重要なデータ提供となっている。

■南相馬農地再生協議会の活動

測定作業終了後に、「菜の花プロジェクト」を実践している「南相馬農地再生協議会」の活動を見学したが、この活動も素晴らしいものだった。菜の花の持つセシウム吸収機能に着目したこのプロジェクトは、農家の協力による菜の花栽培とこの菜の花から食用油（菜種油）を精製し、「油菜ちゃん」の商品名で売り出すに至っている。こうした活動が、飯舘村を含む多くの周辺農家に波及しつつあると聞くが、南相馬でのこうした活動は、原発被災地の今後の自立的な再生に向けて、大きな影響力を持つものと思われる。

福島の放射能調査

（中村　正樹）

私は、長野県大町市で「NPO 地域づくり工房」と「菜の花ステーション」を兼任しており、この活動の一環として、4 月に行われた「菜の花サミット 2018 in 南阿蘇村」に参加した。そこで去年の開催地南相馬の方から「放射能調査をやろう」という話をもらった。

思えば、東日本大震災は高校 1 年生のとき。当時バドミントン部の仲間と、今のメンバーがこうして無事に顔合わせられていること、被災地の高校生を受け入れることなどを話し合った。あれから 7 年がたち、放射能調査にいくことを決意したのは、このときの話があったから。測定隊として現地を回って感じたのは、里山風景を残した浪江や住宅地の鹿島が、被災したとは思えないほどおだやかな町や村だったこと。しかし、少し人里離れた場所、特に海沿いに行くと、津波の大きな傷跡や放射能汚染物質の捨て場があった。現地で津波の被害の話を聞いたとき、今は更地になった集落の話を知った。その集落では、神輿を担いで海に入っていく伝統的な祭りがあったという。津波はその地域の文化すらも飲み込んでしまった。津波の被害や放射能汚染の話は聞いていたが、実際に現状の話や当時の話、自分の目で見たり聞いたりすると、言葉では表現しがたい思いになった。

そんな中でも心を動かされたのは、町全体が前に進もうとしているように見えたことだった。地域に菜の花畑を増やし、放射能測定で値をチェックする菜の花団体や、地元の高校生が街の復興のため市長に企画を提案していること。移住してきた若い人が、「カフェ兼学びの場」を作るため部屋を改装していた。そして、コンビニがないからと、独自で地元の高校生が気軽に立ち寄って休める場所を作っている人もいた。このように「地元の人が自ら進んで何かを作り出す」…そういった地域力には、そこに住む人がその場所を思う心が大切だと感じた。

第 15 期(第 30 次･31 次)空間線量率測定結果

（池田 光司）

福島第一原発事故から半年毎に行われている空間線量率（空間の放射能の強さ）の測定が、今春 4 月にも行われました。事故から 7 年、15 回目の測定になります。測定にご協力いただいた方々、ありがとうございました。また、今回の測定は LUSH の助成を受けて可能となりました。支援をありがとうございました。

今回の測定の特徴は、南相馬市・浪江町に加えて、富岡町も同時に測定を行ったことです。そして、今までは自治体ごとでマップを作成していましたが、今回の測定から「3 自治体統合マップ」となりました。この統合マップを見ると、原発事故による放射能汚染が現状どのように広がっているかが一目で分かります。また、2 年前の統合マップも作成して、今回の統合マップと並べた「2 年前との比較マップ」も作成しました。放射能汚染がこの 2 年でどの程度減ったかが、一目で分かります。双方のマップは、チェル救のホームページ内（http://www.chernobyl-chubu-jp.org/sokutei-map.html）に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

さて、今回の測定結果を一言で言うと「この半年で、空間線量率は下がらなかった」です。今までも一部で「秋→春」は空間線量率が下がりにくいというデータがありましたが、今回は、測定した地域全体でその傾向が出たと言えます。右の表に、各地域の地上 1m の平均空間線量率を、前回（2017 年 10 月）と今回（2018 年 4 月）並べて示しました。「半年の変化率」は、今回の値を前回の値で割ったもので、前回の値に比べて今回の値が、変化率 100%だと同じ（変化なし）、100%より小さいと低くなったこと、100%より大きいと高くなったことを示しています。

表の下段に示しましたように、放射性セシウムの物理的半減期から計算される半年の変化率は 96%になります。

表を見ていただいて分かるように、96%を大きく下回って空間線量率が下がったのは、浪江町の下津島以西の 89%のみです。物理的半減期と同等の 96%あたりとなったのが、南相馬市の原町海岸と小高山間、浪江町の常磐線～常磐道と、常磐道～大柿ダムの 4 地域でした。富岡町が 99%、残りの 10 地域は 100%を上回り、多くの地域では、空間線量率が前回と同じかそれ以上に高くなったという結果になりました。この中で、南相馬市の鹿島山間と浪江町の大柿ダム～下津島の 2 地域では、110%以上で空間線量率が前回より 1 割以上高くなりました。今回、前年の秋に比べて空間線量率が下がらなかった理由は、残念ながら分かりません。ただ、第 7 期（2014 年 4 月）にも、同じように空間線量率が下がらないことがありましたが（ポレーシェ 142 号で報告）、その時はその後再び下がり始めました。今回も第 7 期と同じように空間線量率が一時的に下がらなかっただけなのか、これ以降下がりにくくなるのかどうかは、次回以降の測定の結果を見て判断していく必要があります。

			1m平均空間線量率[μSv/h]		半年の変化率
			2017年10月	2018年4月	
南相馬市	鹿島	海岸	0.124	0.127	102%
		中央	0.148	0.149	101%
		山間	0.192	0.230	120%
	原町	海岸	0.126	0.120	95%
		中央	0.170	0.170	100%
		山間	0.294	0.315	107%
	小高	海岸	0.133	0.133	100%
		中央	0.207	0.207	100%
		山間	0.353	0.337	95%
浪江町	国道6号以東		0.149	0.148	100%
	国道6号～常磐線		0.223	0.223	100%
	常磐線～常磐道		0.528	0.496	94%
	常磐道～大柿ダム		1.693	1.629	96%
	大柿ダム～下津島		1.943	2.152	111%
	下津島以西		1.019	0.904	89%
富岡町			0.556	0.549	99%

＊物理的半減期による半年の変化率　96%

ウクライナ ～ ベラルーシ 訪問記

（松浦 千秋）

5 月 16 日午前 2 時、ボリスポル空港からガラゴロとスースケースの音を響かせてホテルまで歩く。時計もスマホも PC も持たない旅なのに、目覚まし時計を忘れてしまった。旧ソ連式ホテルの部屋に時計はない･･･、明朝起きられるか？

そうして始まったジトーミルへの旅。

今回の目的は、ウガンダの子ども達と名古屋の大学生と文通するジトーミルの子ども達との交流会、友人の誕生祝い、そして墓参でした。

1991 年にチェルノブイリ救援･中部の活動に加えさせていただいたお陰で、ジトーミルの医療関係者との交流が続いています。現在の活動主体はベラルーシ・ミンスクでの細胞診卒後教育です。政治経済の停滞が医療に影を落とす現状ですが、現場スタッフの努力に変わるところはありません。新しい医療技術と知識は連動させたい。将来へ向けた人材教育が重要であると私は確信しています。その将来をキーワードに進めているのが子ども達の交流プロジェクトです。ウガンダ小学生とジトーミル、愛知学院大学学生とジトーミルの子ども達との文通です。移住基金ドンチェヴァさんの活動の延長線上にあるこのプロジェクトは、“英語を学び、国外に友達を持ち、自国を知る”が狙いです。放射能災害を双方向で学ぶ機会にもなります。好奇心旺盛な若者達のキラキラした感性は、国境も人種も容易に飛び越え、新しい人間関係を創り出しています。まさに私達の希望です。

＜ジトーミル市第 25 番学校で（2018.05/17）＞

長いお付き合いには別れがあることを、墓参の度に思い知らされます。

私達日本人の活動を支えてくださった移住基金キリチャンスキー氏が亡くなられてもう 5 年になります。今は、昨年亡くなられた奥様リリーさんと並んで眠ります。同じ墓地には、州立小児病院に勤務しチェルノブイリ事故除染作業員としても働いたセルゲイ医師も眠ります。事故から 32 年、子ども達は立派に成長し次世代を育てています。共に歩いてきた時間を改めて感じつつ、新しい世代の活躍を願い、次訪問地ミンスクへ向かいました。

7 月 13 日は、キリチャンスキー氏の 5 周忌でした。

【ドンチェヴァさんからのメール】

今日、私たちはヴラディーミル・キリチャンスキーを偲びます。彼の 5 周忌です。彼の友人たちは一緒にお墓に参り、追悼するのが慣わしです…。彼の仕事仲間はみな、良い思い出を語り、私たちは彼の記憶を心に留めるようにしています。日本の友人でありパートナーである皆さんからのご挨拶を、必ず彼にお伝えします。

【チェル救を代表して竹内さんのメール】

キリチャンスキー氏の友人の方々に、『私たちは日本で彼のことを忘れていません。彼がいなければこれほど長く支援を続けることもできなかったでしょうし、彼のおかげで私たちはウクライナにすばらしい友人たちができたのですから』と伝えてください。

＜キリチャンスキー氏の墓石前で（2018.07/13）
今、キリ氏の墓石には、左側に奥さまの生没年月日も刻まれています。お二人のご冥福をお祈りします。＞

2017年度　活動計算書

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部　　（単位：円）

（特定非営利活動に係る事業会計）　　自 2017年 4月 1日　至 2018年 3月31日

科目		金額		
【経常収益】				
1．受取会費	正会員受取会費	138,000		
	賛助会員受取会費	498,000	636,000	
2．受取寄付金	ミルクキャンペーン	490,805		
	被災者団体支援	570,315		
	医療機関支援事業	144,765		
	福島原発被災支援	1,269,500		
	一般寄付	5,095,757	7,571,142	
3．受取助成金	JT NPO応援プロジェクト第2期第1回返還金	△ 268,919	△ 268,919	
4．事業収益	福島支援事業	926,002		
	イベント関連事業	39,600		
	啓発事業	17,080	982,682	
5．その他の収益	受取利息	36		
	為替差益	149		
	雑収益	96,570	96,755	
経常収益 計				9,017,660
【経常費用】				
1．事業費				
(1)人件費	給料手当・日当	725,000		
	人件費　計	**725,000**		
(2)その他経費	業務委託費	499,939		
	支援金	2,586,306		
	印刷製本費	1,346,666		
	諸謝金	214,896		
	会議費	7,117		
	旅費交通費	3,026,610		
	通信費	179,682		
	荷造運搬	197,344		
	消耗品費	14,645		
	地代家賃	222,000		
	賃借料	9,600		
	売上原価	256,869		
	保険料	24,840		
	諸会費	40,000		
	支払手数料	42,376		
	雑費	76,973		
	為替差損	4,874		
	その他経費　計	**8,750,737**		
事業費 計			9,475,737	
2．管理費				
(1)人件費	給料手当	1,697,100		
	法定福利費	3,397		
	人件費　計	**1,700,497**		
(2)その他経費	通信費	161,181		
	荷造運賃	8,078		
	水道光熱費	99,302		
	旅費交通費	18,370		
	消耗品費	166,953		
	印刷製本費	58,100		
	修繕費	12,800		
	地代家賃	777,600		
	保険料	7,730		
	租税公課	1,100		
	諸会費	40,000		
	支払手数料	54,680		
	雑費	12,163		
	その他経費　計	**1,418,057**		
管理費 計			3,118,554	
経常費用　計				12,594,291
当期正味財産増減額				△ 3,485,253
前期繰越正味財産額				4,672,168
次期繰越正味財産額				1,186,915

※その他の事業は実施していません。

2017年度　計算書類の注記

１．重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日　2011年11月20日一部改正　NPO法人会計基準協議会)による。

（１）固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。

（２）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

２．事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです。　(単位：円)

科目	医療機関支援事業	粉ミルク支援事業	被災者団体支援事業	クリスマスカード事業	業務委託事業	通信誌発行事業	イベント関連事業	派遣事業	福島原発被災支援事業	啓発事業
【経常収益】										
受取寄付金	144,765	490,805	570,315						1,269,500	
受取助成金									△ 268,919	
事業収益							39,600		926,002	17,080
その他の収益							23,080	149		
経常収益 計	144,765	490,805	570,315	0	0	0	62,680	149	1,926,583	17,080
【事業費】										
(1)人件費										
給料手当・日当				33,000				200,000	492,000	
人件費計	0	0	0	33,000	0	0	0	200,000	492,000	0
(2)その他経費										
業務委託費					499,939					
支援金	500,000	428,000	1,100,000						558,306	
印刷製本費			61,776	4,880		203,800	500		1,075,710	
諸謝金							93,411	121,485		
会議費								7,117		
旅費交通費				56,800			55,480	510,725	2,403,605	
通信費				16,359		68,687	2,754		6,790	
荷造運搬費				92,940		180,566	2,449		6,481	
消耗品費				11,446			2,701		498	
地代家賃									222,000	
貸借料							9,600			
売上原価									251,341	5,528
保険料								24,840		
諸会費									40,000	
支払手数料	3,571	9,362	15,764	108			88	1,512	11,971	
雑費							25,972	9,529	41,472	
為替差損								4,874		
その他経費計	503,571	437,362	1,177,540	182,533	499,939	453,053	192,955	680,082	4,618,174	5,528
事業費計	503,571	437,362	1,177,540	215,533	499,939	453,053	192,955	880,082	5,110,174	5,528
経常収益－事業費	△ 358,806	53,443	△ 607,225	△ 215,533	△ 499,939	△ 453,053	△ 130,275	△ 879,933	△ 3,183,591	11,552

第19期（2017年4月1日～2018年3月31日）の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

平成30年　5月　18日　　監査人　神野美知江

2016年度に600万円以上あった助成金がなくなったことが要因で、経常収益は昨年度比465万円減と大きく下回りました。一方、寄付金は225万円増で、夏にリクビダートルキャンペーンを、12月に年末カンパを訴え、寄付強化に努めた結果です。ご協力いただきました会員の皆様、また支援者の皆様に心より感謝申し上げます。経常費用については、ほぼ2016年度と変わりませんが、2017年度は放射能測定センター・南相馬の5周年記念事業があったことなどが要因で、70万円ほど増えました。350万円近くの赤字で全体的に厳しい運営となりました。2018年度に120万円弱しか繰り越せず、今年度も厳しい運営になることが予想されます。新たな助成金獲得、寄付金の強化を図り、厳しい財政状況の回復に努めたいと思います。引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。（会計係 兼松）

事務局便り

西日本豪雨災害で被災された地域の皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。ポレーシェ読者の皆様の中にも、甚大な被害を受けた地域に在住する方もみえ、心よりご無事をお祈りいたします。

日本が災害列島と言われて久しく、スケールアップした様々な災害に見舞われている。今回の豪雨がそれだ。猛暑も「災害」級となった。「命の危険がある暑さ。災害と認識している」と気象庁。私達が「自然」と呼んでいるものの圧倒的な「ちから」にはどうにもかなわない。そして、その災害は防ぎようがないばかりか、新たな被害を誘発する。岡山のアルミ工場では、浸水した水と原料が反応し、工場が爆発した。東電福島第一原発は、地震という自然災害が引き金となり、未曾有の原発事故を起こした。自然災害はいつでも起こる。危険な構造物にしがみつき、再稼働などと軽挙妄動にゆだねれば、そのつけは必ずやってくる。正気の沙汰ではない。　（山盛）

オンライン決済始めました！！　ぜひご利用ください。

（兼松）

団体のホームページから、クレジットカードによるご寄付や会費の納入ができるようになりました。「郵便局まで行くのが面倒で…」という方!! ぜひご利用ください。使えるクレジットカードは、VISA・MasterCard・JCB・AMERICAN EXPRESS・Diners Club です。会費は自動で年継続されますので、一度手続きをすれば、更新の手間もかかりませんし大変便利です。停止したい場合は、事務局までご連絡いただければ手続き可能です。（領収書の発行は通常しておりませんので、必要な方は別途お申し出ください。）外に出るのも躊躇するような記録的な猛暑です！インターネットさえつながれば、24 時間いつでもどこからでもご利用いただけます♪

編集後記

☆ポレーシェの編集歴 19 年。ついに今回からシニアグラスを使い始めた。それなのに、チェル救ではいまだに「若手」と言われる。本当の若手が現れるまで若づくりに励みます。　（佳）

☆猛暑・酷暑にご注意！　高齢者の冷房の使い方は、体の冷えを嫌ったり節電を理由にした、冷房使用時間の短縮や温度設定です（老化に伴い皮膚の温度センサーが鈍い）。在宅中の熱中症予防は、「自らが暑さを感知しにくくなっていること」を自覚しなければいけません。　（美）

☆先日来の「西日本豪雨」は、予期せぬ大惨事となってしまった。この間、災害対策本部の最高司令官である（べき）「〇〇晋三」は、自身の総裁選対策を優先させて「宴会」にうつつを抜かし、二日酔いの身体を私邸で休め、「カジノ法案」の成立に固執するとともに、最後まで、欧州・中東の「遊説」を諦めようとしなかった。今回の災害は、「天災」ではなく「人災」、もっとハッキリ言えば、晋三とその取り巻きによる「晋災」である。「種子法の廃止」「水道の民営化」・・・。私たち日本人は、この「厄災（厄病神）」を自力で退治して「革命」をおこさないかぎり、世界中の人々からますます軽蔑されることになる。少なくとも「地球全体（極東・中東・欧米…）で革命が進行中」であることぐらいは、理解しておくべきである。　（J）

〒 456-0022　名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷 「エープリント」
TEL・FAX（052）871-9473